

# 駆ける魂

会心の走りで8月の英国GP制す。来季は最高峰クラス参戦へ

オートバイの世界選手権シリーズの最高峰、モトGPクラス。2014年の青山博一を最後に日本人選手が不在だったこの舞台に、来季、中上貴晶(25)が挑戦する。いまだ日本人が頂点を極めたことがない最速のライダーを決めるクラスでの戦いを前に「小さな時から夢見てきた舞台」と力を込める。

8月27日、今季第12戦の英国グランプリ(GP)。下位カテゴリのモト2クラスで予選4番手から決勝に挑んだ中上は会心のレース運びを見せた。序盤は慌てずに状況を見極めながら、冷静に順位を上げる。満を持して12周目でトップに立つと、そのままチェッカーフラッグ。16年のオランダGP以来のこのクラス2勝目を手にした。

なかがみ たかあき  
2輪モトGPライダー 中上 貴晶 (25歳) ㊦



8月の英国GPでは状況を見極めながら冷静に順位を上げていった—ホンダ提供

17年はモト2クラス6年目を抱えていては、安定した成績を残すのは難しいの目シーズン。開幕前からチーム関係者に来季モトGP昇格の可能性があると伝えられていた。「結果を残したい」。そんな気負いが本来の走りを失わせた。

開幕戦で3位表彰台も2戦目はリタイア。3戦目で3位に巻き返したと思えば、次は21位と走りも順位も安定しない。「攻めすぎたり、逆に守りすぎたり。その時はただ一生懸命で気付かなかったけれど、焦っていたんだと思う」

各メーカーがバイクの開発にしのぎを削るモトGPクラスと違い、モト2クラスは同一エンジンで争う。各チーム間のバイクの性能の差はごくわずか。フリー走行や予選ではわずか1秒の間に20台前後がひしめく混戦となる。メンタルに問

10月の日本GP(ツインリンクもてぎ)でポールポジションを獲得。決勝は苦戦の順位とか、具体的な数字は今はいえない。でも、い盤まで首位を走行した。最後は「悔しいの一言」と振り返ったように6位まで順位を落としたが、積極的な

走りは観客を魅了した。とはいえ、1年を通して安定した成績を残せなかった反省は残る。年間7位は前年の6位を下回り、獲得ポイントも少なかった。「もってこいと優勝できると思っていた。ふがいない、と

「それが英国GPを前にした8月20日、18年からのモトGPクラス昇格が決定すると「レースに勝った」という気持ちに切り替わった。そのタイミングでの勝利で失いかけていた自信を取り戻した。

夢に見た最高峰クラスでの戦いに自然と目が輝く。「来季の順位とか、具体的な数字は今はいえない。でも、いつか日本人が誰もなし遂げたい」

(敬称略)

この連載は馬場到が担当します。